

教員養成に係る教育の質の向上の取り組み

本学では、学生は、幼稚園教諭二種免許状、保育士の資格取得を卒業と同時に目指している。

教職課程のカリキュラム、教員の配置、教育実習・保育実習、教育実習計画、授業時間、実習記録などは、適正に行われるようにしている。教務部会において教務部教員が教務グループ職員と連携し、関係法令変更などに対し適切に対応している。

実習施設等の計画については、実習部で検討し、適正な実習実施条件のもと実施している。

また、個々の学生に対する学習成果のアセスメントは、4段階の成績評定（A・B・C・D）と単位認定によって前・後期末に判定し、卒業年では卒業判定を実施している。

の基礎となるのは、講義・演習・実技科目で実施される試験である。前・後期末の2回の定期試験（レポート、作品、実技試験を含む）については、「履修に関する規程」において、受験資格、評価区分、追試験および再試験等を整備している。また、科目ごとに中間段階での小テスト、小レポートやノートの提出、実技の発表の機会などを行い、学生の学習状況に応じた工夫をしている。

各科目担当者は、個々の学生の学習成果を把握しているが、教務委員会では、各教員の意見から課題を分析し、カリキュラムに反映させている。又、授業評価アンケートと学生生活調査の結果は、教育方法部で分析し、教育活動の改善に資している。さらに就職部では、学卒業生の就職先での評価について、実習部と連携して把握に努め、就職指導や教育活動に反映させている。

本学は、幼稚園教員の養成については50年の歴史があるが、その伝統を受け継ぐだけでなく、発展させ、現在も授業だけでなく次のような取組を行っている。

・子どもフェスティバルの開催

毎年、11月に地域の子どもたちを招いて、子どもフェスティバルを実施、実際に保育・教育活動を実施する（アクティブラーニング）中で、講義では得られない教育効果を挙げている。

・表現活動発表会の開催

1月に音楽、演劇、図画工作などの表現活動を発表する表現活動発表会を実施、準備から発表までの中で、こちらも講義では得られない教育効果を挙げている。